

叢A
89
7

調査及資料報告第七輯 (昭和八年七月)

職工の移動より見たる
京阪神工業界の趨勢

大阪商工會議所調査課



10. 3. 20

89
7

は し が き

昨年下半年以降、我國の産業界には長い間の萎靡沈衰の傾向を破つて相當顯著な恢復の狀勢があらはれて來た。之は金輸出再禁止以來當然來るべきを豫想せられた爲替相場の下落が昨年中葉に至り、豫想以上大幅に實現して我國の輸出産業に大きな刺戟を與へたこと、滿洲事變其他國際的非常時局の進展が軍需品工業の活動を促がしたこと、農村救濟其他所謂財政インフレーションの本格的實現が漸く近づいて來たこと等によるものであるが、本調査は、専ら職工移動の方面から、此の景氣恢復がどの程度に京、阪、神の産業界にあらはれて居るかを見たもので、本邦産業界の中心地帯たる此の地方に於る狀勢の闡明は、やがて本邦全體の産業界の動向を、大體に於て指示してゐるものと見て差支へないと信ずる。

昭和八年六月

大阪商工會議所調査課

職工の移動より見たる

京阪神工業界の趨勢

昨年下半期以來殊に顯著となつて來た、所謂インフレーション景氣及軍需品工業景氣は、本邦に於ける最も重要な工業地帯である大阪、兵庫、京都の二府一縣の工業界に、果してどれだけ具體的に實現されてゐるか、之に就ては諸種の方面から窺知することが出來やうが、以下本調査では、専ら工業界の盛衰繁閑を最も如實に反映する職工の増減實勢（自昭和七年七月至同八年三月）の上から、之を考察して見やうと思ふ。

（註 本調査に於ける職工移動の數字は、職工五十名以上を雇傭せる工場の常時雇傭職工増減數であつて、臨時雇傭職工は包含してゐない。）

一、最近に於る京阪神職工移動概勢

概 況

爲替暴落に伴ふ各種輸出工業の殷盛、非常時時局を表徴せる各種軍需品製造工業の異常なる膨張、

各種時局匡救事業の實施に伴ふ消費激増等によつて、新規職工の需要は、近時殊に昨年九月以來急激な増加に向ひつゝあることは争はれぬ事實であつて、殊に爲替激落インフレーション本格化の趨勢顯著であつた昨年十月、十一月、十二月の三月間は、新規備入職工数は異常なる激増を來した、越えて本年一月以降は多少其増加の率勢を減じた観があるが、然かも尙依然増加の一途を辿つてゐて、今昨年七月から本年三月までの九ヶ月間に於ける、大阪、兵庫、京都二府一縣の職工移動状態を表示すると、左の如くである。

最近九ヶ月間大阪、京都、兵庫二府一縣職工移動及び現在數

	解 雇	備 入	差 引 増 減	現 在 數
昭和七年七月	六、一九一名	五、六八〇名	(減) 五二一名	二六二、三八六名
同 八月	七、九六九名	七、三九七名	(減) 五七二名	二六一、九八八名
同 九月	七、一六七名	八、九七七名	(増) 一、八一〇名	二六三、九六〇名
同 十月	六、九三三名	九、六三一名	(増) 二、六九八名	二六六、七九七名
同 十一月	五、二四七名	八、四七五名	(増) 二、二二八名	二七〇、一三九名
同 十二月	五、七八一名	一〇、三〇三名	(増) 四、五二二名	二七五、〇四四名

昭和八年一月 七、四一二名 九、四九九名 (増) 二、〇六〇名 二七八、一八七名
 同 二月 七、九三二名 一一、一四七名 (増) 三、二一五名 二八〇、四三八名
 同 三月 九、四八〇名 一〇、四八九名 (増) 一、〇〇九名 二八一、六三三名
 即ち昨年七、八兩月に於ては、解雇數が備入數を超過し、夫々五百十一名及五百七十二名の減少を示してゐるが、九月以降備入數が解雇數を超過し始め、九月一千八百十名、十月二千六百九十八名、十一月二千二百二十八名、十二月四千五百二十二名、昭和八年一月二千六十名、二月三千二百十五名、三月一千九名を夫々増加してゐる。

七月は上半期以來の經濟界不況依然として解消されず、國民生活に重大關係ある諸物價も、インフレ景氣を反映せしむる程上騰せず、爲替相場も六月下旬急落の後を享けて、尙下げたらぬ氣構に充たされてゐた、隨て工業方面に於ける各業態別職工五十名以上の増減を見るに、減少は紡績業の四一六名減、製油製蠟業の五〇名減等で、他方増加は軍需品工業に關聯せる船舶車輛製造業の二三七名増、發火物製造業の八四名増、其他インフレ景氣擡頭の前哨とも見做されるものに、染色整理其他加工業の六六名増等で、結局前月に比較して、職工五一一名を減じてゐる。

八月は依然として七月の趨勢を繼續しつゝあつて、各業態別職工五十名以上の増減を見るに、減

少は紡績業の四一六名減、木工業の二九一名減、船舶車輛製造業の一一名減、燃糸業の七七名減等で、其内船舶車輛製造業の職工減は軍需品受註完成に依るものと解される、一方増加は輸出工業に關聯せる染色整理其他加工業の二四五名増、軍需品及輸出の兩工業に跨れるものと思惟される發火物製造業の二二四名増、金屬品製造業の八五名増、製藥業の六六名増等で、結局前月に比較して職工五七二名を減じてゐる。

九月は圓爲替の激落に伴ふ輸出工業の殷盛、軍需品製造工業の受註増加、其他時局匡救事業着手等のため、愈々待望のインフレーション時期に入り、各業態別職工五十名以上の増減を見るに、減少は製糸業の一〇五名減、化粧品製造業の一〇五名減、電氣業の六六名減、船舶車輛製造業の六一名減、窯業の五五名減等で、他方増加は紡績業の三九八名増、ゴム製造業の二九三名増、織物業の二八六名増、金屬品製造業の二八六名増、機械製造業の二三二名増、發火物製造業の一三四名増、染色整理其他加工業の一三二名増等で、結局前月に比較して、職工一、八一〇名を増加し、工業界インフレ化の前奏曲を展開してゐる。

十月は九月のインフレ景氣に更に拍車をかけた觀があつて、各業態別職工五十名以上の増減を見ると、減少は僅に紡績業の四〇九名減、織物業の五九名減のみで、他方増加は軍需品及び輸出の兩工業、時局匡救事業等の各方面に汎く及んでゐる、即ち發火物製造業の九一九名増を始めとし、ゴ

ム製造業の四八九名増、船舶車輛製造業の四六六名増、窯業の二九九名増、雜業の二五七名増、機械製造業の二二七名増、染色整理其他加工業の一八六名増、金屬品製造業の一四四名増等で、結局前月に比較して、一舉に職工二、六九八名を増加してゐる。

十一月は十月の騰勢を更に繼續しつゝあつて、各業態別職工五十名以上の増減を見ると、減少は一つも見當らないで、何れも増加の一途を辿りつゝあつて、軍需品製造に關聯せる機械製造業の一二五名増、金屬品製造業の一三〇名増、軍需品製造と輸出との兩方面に跨れる發火物製造業の七三〇名増、ゴム製造業の四六三名増、其他輸出工業に關聯せる醸造業の五四四名増、織物業の三五五名増、紡績業の一九六名増、染色整理其他加工業の一七六名増、木工製造業の七三名増等、及び關稅墻壁累加によつて蘇生せし事業、時局匡救事業開始によつて活況を來せし工業等もあつて、結局前月に比較して、職工二、二二八名を増加してゐる。

十二月はインフレ景氣の最高潮に達した月で、各種業態別職工五十名以上の増減を見ると減少は僅に器具製造業の六七名減のみで、其他は多大の増加を來してゐる、即ち軍需品製造工業に關聯せる機械製造業の二九八名増、船舶車輛製造業の一〇九名増、金屬品製造業の二二八名増を始めとし、軍需品製造と輸出との兩方面に跨つてゐる發火物製造業の二七九名増、輸出及び季節的の關聯がある

ものと思惟される醸造業の一、八八六名増を始めとし、輸出工業に關聯がある織物業の六二〇名増、紡績業の三八五名増、染色整理其他加工業の七二名増、化粧品製造業の五二名増、其他一般インフレ景氣に關聯あるものと思惟される雜業の一二一名増、製穀製粉業の八二名増、印刷製本業の五五名増等、何れも百花繚亂の觀を展開してゐて、結局前月に比較して、職工四、五二二名の激増を招來してゐる。

更に昭和八年一月は、舊臘來のインフレ景氣が依然として持續されてはゐるものの、一方國際聯盟に於ける日支問題の雲行は晴曇定かでなく、多分に決裂性を胎みつゝ、越年したため、或者は聯盟脫退後の經濟斷交を懸念し、或者は齋藤内閣の議會乗切りを疑ひ、更に或者は米國の不況深加が日米爲替の上に、何時如何なる變化を惹起せしめるかも知れぬといふ疑懼等からして、工業界はインフレ昂進の内にも、一種の不安と焦燥とを伴ひ、ために其騰勢聊か減殺の傾向が看取された、即ち各業態別職工五十名以上の増減を見ると、減少は紡績業の四一四名減、製糸業の二七三名減、皮革製品業の五七名減等で、他方増加は依然として軍需品工業に最も著しく、機械製造業の四八五名増を始めとし、金屬品製造業の三三三名増、船舶車輛製造業の二二九名増、發火物製造業の二一三名増、輸出工業及時局匡救事業等に關聯せるゴム製造業の四七七名増、組物編物業の一八八名増、窯業の一七

九名増、染色整理其他加工業の一六〇名増、織物業の一五一名増、菓子製造業の一〇二名増、器具製造業の八五名増、製油製蠟業の六四名増、セルロイド製造及加工業の五七名増等で、結局前月に比較して、職工二、〇六五名を増加してゐる。

二月は一月に比して國際聯盟の雲行愈々險惡を極め、且米國の不況も益々深刻化して來て、弗價は早晚動搖の免れ難きことが明瞭となり、隨て昨秋來のインフレ景氣の上に、一大支障を來さむとするの氣配濃厚であつたが、他方軍需品工業及輸出工業共に、益々本格的活況を展開し來り、爲めに職工の新規需要は相當數の激増を示したが、一方インフレ見送りの工業もポチ／＼散見出来るやうになつて來た、即ち各業態別職工五十名以上の増減を見るに、減少は精穀製粉業の三八六名減を始めとし、醸造業の二二三名減、人造絹糸業の八〇名減等で、他方増加の方は前述に基く、紡績業の八〇五名増、機械製造業の五四〇名増、發火物製造業の五四〇名増、織物業の四七七名増、金屬品製造業の三二九名増、ゴム製造業の二一三名増、染色整理其他加工業の一八九名増、船舶車輛製造業の一七〇名増、罐詰罐詰製造業の一六三名増、器具製造業の八五名増、窯業の五〇名増等で、結局前月に比較して、職工三、二一五名の増加を來してゐる。

三月は我國の國際聯盟關係も愈々斷絶し、且米國に於いては積年の不況に堪えかねて、遂に金本

位離脱を斷行するに至つた月として、一般工業界には多少前途低迷の感を深加せしめたが、それにも拘らず熱河討伐工作の着手、低爲替の繼續及び時局匡救事業の進展等に依りて、軍需品製造及び輸出工業共に、依然活況を展開しつゝあつて、各業態別職工五十名以上の増減を見るに、減少は季節的原因に基く釀造業の一、四五三名減を始めとし、製糸業の三二〇名減、ゴム製造業の七五名減、仲仕人夫業の五七名減、染色整理其他加工業の四七名減等、多少前途に一沫の不安を示唆せる嫌もあつたが、他方増加は前述の如き原因にて、機械製造業の五一二名増、船舶車輛製造業の四〇九名増、織物業の三九五名増、發火物製造業の三一九名増、人造絹糸業の二七〇名増、紡績業の二四九名増、金屬品製造業の二三九名増、組物編物業の二三五名増、器具製造業の一四三名増、菓子製造業の九九名増、雜業の七十二名増、瓦斯工業の四七名増等で、結局前月に比較して、職工一、〇〇九名を増加してゐる。

大阪府下に於ける職工移動概況

昭和七年七月より同八年三月に至る

大阪府下に於ける職工五十名以上雇傭工場の職工増減を、昭和七年七月から同八年三月に至る、

九ヶ月間に亘りて比較すると、

昭和七年七月は依然として上半期以來の不況を繼承しつゝあつて、職工減は四百三十七名で、内譯、男工七一名減、女工三六六名減、その減少の著しいものは、紡績業二七三名減、織物業七二名減、機械製造業二九名減、染色整理其他工業二三名減、印刷製本業二三名減、木竹莖蔓製造業二三名減等で、一方著増に船舶車輛製造業二八名増、金屬品製造業三一名増等がある。

八月は經濟界の不況も多少減退の傾向にあつたが、それでも尙職工の減少は免れ難く、職工減は二百九十九名で、内譯、男工一七四名減、女工一二五名減、その減少の著しいものは、紡績業三六〇名減、燃糸業七七名減、木竹莖蔓製造業三九名減、機械製造業三一名減、金屬品製造業二一名減等で、他方インフレ景氣の前哨とも見られる著増に、染色整理其他加工業一〇六名増、織物業七五名増、製藥業六六名増、窯業二九名増、雜業二七名増、ゴム製造業二六名増等がある。

九月は經濟界の不況も殆んど拂拭されて、ポチ／＼インフレ景氣の擡頭しかけて來た月で、職工は一舉に七百六名を増加し、内譯、男工三〇〇名増、女工四〇六名増、著増は主として軍需品及輸出工業に關聯せるものが多く、金屬品製造業一七四名増、紡績業一六三名増、織物業一五六名増、染色整理其他加工業七七名増、機械製造業七二名増、ゴム製造業五二名増、發火物製造業五一名増、

組物編物業三二名増、製藥業三二名増、船舶車輛製造業二六名増等で、一方著減せしものに、化粧品製造業一〇五名減、窯業五五名減、木竹莖蔓製造業二二名減等がある。

十月は待望のインフレ景氣が本格化して來た月で、職工増は五百三十六名で、内譯、男工六五一名増、女工一一五名減、軍需品製造及輸出と時局匡救との三工業が期せずして活況に移り、その増加の著しいものは、窯業二三二名増、雜業一六四名増、機械製造業九〇名増、船舶車輛製造業七九名増、染色整理其他加工業七八名増、金屬品製造業六五名増、燃糸業四五名増、化粧品製造業四二名増、菓子製造業二四名増等で、一方著減は僅に、紡績業二〇三名減、織物業一四五名減のみである。

十一月は前月の騰勢に多少拍車をかけた月で、職工増は四百八十四名で、内譯、男工一八五名増、女工二九九名増、著増は主として、織物業二〇七名増、金屬品製造業八二名増、ゴム製造業八一名増、窯業四九名増、電氣業四五名増、雜業四四名増、製油製蠟業二〇名増、仲仕人夫業二〇名増等で、一方著減は、船舶車輛製造業五七名減、木竹莖蔓製造業三七名減等である。

十二月はインフレ景氣の白熱化した月で、職工増は一千六百七十七名で、内譯、男工六六〇名増、女工五〇七名増、その増加の著しいものは、織物業三四一名増、金屬品製造業一九三名増、船舶車輛製造業一五一名増、雜業一二一名増、機械製造業一〇〇名増、印刷製本業五五名増、化粧品製造業

五二名増、仲仕人夫業三八名増、織物業三〇名増、組物編物業二九名増、ゴム製造業二六名増等である。

昭和八年一月は前月程の騰勢は見なかつたけれども、各工業共相當の活況を展開してゐて、職工増は八百六十五名で、内譯、男工七三八名増、女工一二七名増、その著しい増加は、金屬品製造業一七八名増、船舶車輛製造業一六六名増、窯業一五四名増、織物業一四三名増、機械製造業一二五名増、染色整理其他加工業一二〇名増、組物編物業一一二名増、ゴム製造業一〇一名増、雜業四八名増、器具製造業四三名増、製油製蠟業二九名増等で、一方著減に紡績業二九六名減、菓子製造業四四名減、化粧品製造業三六名減等である。

二月はインフレ景氣開始以來の騰勢を展開した月で、職工増は一千四百八名で、内譯、男工一六名増、女工九九二名増、その著しい増加は、紡績業四六〇名増、織物業二七三名増、染色整理其他加工業一七四名増、金屬品製造業一五八名増、機械製造業一四七名増、雜業七八名増、窯業五〇名増等で、一方著減は組物編物業五四名のみである。

三月は二月の騰勢に追隨して多少之に及ばなかつた月で、職工増は一千百八十四名、内譯、男工五八九名増、女工五九五名増、その著しい増加は、織物業三五八名増、紡績業二二七名増、機械製

造業二〇二名増、金属品製造業一三二名増、菓子製造業一二三名増、ゴム製造業八九名増、器具製造業七四名増、船舶車輛製造業五六名増、窯業三八名増、化粧品製造業三四名増、雜業三二名増、組物編物業二七名増等で、一方著減せしものは、染色整理其他加工業六七名減、仲仕人夫業五九名減等である。

大阪府下に於ける職工移動及現在數

月	男		女		計
	増減	現在	増減	現在	
七月	(減)	七一名	(減)	三六六名	(減) 四三七名
八月	(減)	一七四名	(減)	一二五名	(減) 二九九名
九月	(増)	三〇〇名	(増)	四〇六名	(増) 七〇六名
十月	(増)	六五一一名	(減)	一五一一名	(増) 五三六名
十一月	(増)	一八五名	(増)	二九九名	(増) 四八四名
十二月	(増)	六六〇名	(増)	五〇七名	(増) 一、一六七名
昭和八年一月	(増)	七三八名	(増)	一二七名	(増) 八六五名
同二月	(増)	四一六名	(増)	九九二名	(増) 一、四〇八名

同三月 (増) 五八九名 (増) 五九五名 (増) 一、一八四名

昭和七年七月分

現	備	解	現	備	解	計
在	入	雇	在	入	雇	
男	一、〇一二名		男	九四一名		計 三、二四八名
女	二、二三六名		女	一、八七〇名		計 二、八一一名
計			計			計 一四四、〇一二名

同 八月分

現	備	解	現	備	解	計
在	入	雇	在	入	雇	
男	一、三〇五名		男	一、一三一名		計 四、二三三名
女	二、九二八名		女	二、八〇三名		計 三、九三四名
計			計			計 一四三、七二三名

同 九月分

現	備	解	現	備	解	計
在	入	雇	在	入	雇	
男	一、一六八名		男	一、四六八名		計 三、九七五名
女	二、八〇七名		女	三、二一三名		計 四、六八一一名
計			計			計 一四四、四一九名

同			十月分		
解雇	備入	現在	解雇	備入	現在
	男 一、〇八二名	女 二、六四〇名	計	三七、二二名	
	男 一、七三三名	女 二、五二五名	計	四、二五八名	
	男 五八、七五三名	女 八六、二〇二名	計	一四四、九五五名	
同			十一月分		
解雇	備入	現在	解雇	備入	現在
	男 九〇八名	女 一、九〇九名	計	二、八一七名	
	男 一、〇九三名	女 二、二〇八名	計	三、三〇一名	
	男 五八、九三八名	女 八六、五〇一名	計	一四五、四三九名	
同			十二月分		
解雇	備入	現在	解雇	備入	現在
	男 七七七名	女 一、八四五名	計	二、六二二名	
	男 一、四三七名	女 二、三五二名	計	三、七八九名	
	男 五九、五九八名	女 八七、〇〇八名	計	一四六、六〇六名	
昭			和八年一月分		
解雇	備入	現在	解雇	備入	現在
	男 一、〇二六名	女 二、六三五名	計	三、六六一名	

同			二月分		
解雇	備入	現在	解雇	備入	現在
	男 一、七六四名	女 二、七六二名	計	四、五二六名	
	男 六〇、三三六名	女 八七、一三五名	計	一四七、四七一	
同			三月分		
解雇	備入	現在	解雇	備入	現在
	男 一、三〇五名	女 二、九二一名	計	四、二二六名	
	男 一、七二一名	女 三、九一三名	計	五、六三四名	
	男 六〇、七五二名	女 八八、一二七名	計	一四八、八七九名	
同			三月分		
解雇	備入	現在	解雇	備入	現在
	男 一、三七六名	女 二、六七六名	計	四、〇五二名	
	男 一、九六五名	女 三、二七一	計	五、二三六名	
	男 六一、三四一名	女 八八、七二二名	計	一五〇、〇六三名	

兵庫縣下に於ける職工移動概況

昭和七年七月より同八年三月に至る

兵庫縣下に於ける職工五十名以上雇備工場の職工増減を、昭和七年七月から昭和八年三月に至る

九ヶ月間に亘りて比較すると、

昭和七年七月は、依然として上半期以來の經濟界不況の域を脱し得ないで、職工減は二百八十七名で、内譯、男工一一五名減、女工一七二名減、著減の主なるものは、紡績業二三三名減、セルロイド其他加工工業五五名減、製油製蠟業五〇名減、製糸業二〇名減等であるが、一方軍需品製造及輸出工業は、他府縣に魁して殷盛に向ひつゝ、あつて、其主なる著増は、船舶車輛製造業二三七名増、發火物製造業八四名増、組物編物業四四名増、ゴム製造業三一名増、雜業三〇名増、紙製造業二九名増、醸造業二九名増、機械製造業二八名増、金屬品製造業二七名増等である。

八月は經濟界の不況も漸く終熄を告げたもの、如く、職工減は僅に百七十一名で、内譯、男工三〇名減、女工一四一名減、其主なる著減は木工業二九一名減、紡績業一二八名減、製糸業二五名減等であるが、他方軍需品製造及輸出工業は全面的活況に向ひ、著増せるものに發火物製造業二二四名増、金屬品製造業八五名増、染色整理其他加工工業四三名増、組物編物業三九名増、醸造業三八名増等がある。

九月は一部の工業を除けば、全面的にインフレ景氣の昂進した月で、職工は一舉に八百十四名を増加し、内譯、男工四五九名増、女工三五五名増、著増は主として軍需品製造及輸出工業に屬する、ゴム製造業二四一名増、機械製造業一六〇名増、發火物製造業一三四名増、金屬品製造業一二二名

増、紡績業一〇九名増、染色整理其他加工工業五五名増、器具製造業四〇名増、雜業二三名増、製油製蠟業二〇名増、石鹼及蠟燭業二〇名増等で、一方著減は僅に製糸業七〇名減、電氣業六六名減、船舶車輛製造業六一名減、組物編物業四三名減等である。

十月は待望のインフレ景氣が本格化して來た月で、軍需品製造及輸出工業並に時局匡救事業等、何れも百花繚亂の觀を展開するに至り、職工増は未曾有ともいふべき二千二百三十三名で、内譯、男工一、一六一名増、女工一、〇七二名増、その著しい増加は、發火物製造業九一九名増、ゴム製造業四八九名増、船舶車輛製造業三八七名増、機械製造業一三七名増、織物業一二二名増、雜工業九三名増、窯業六七名増、金屬品製造業四九名増、染色整理其他加工工業三八名増、製油製蠟業三七名増、菓子製造業三三名増、木工業三二一名増、器具製造業三〇名増等で、他方著減は僅に紡績業二〇六名減のみである。

十一月は前月の騰勢に多少拍車をかけた觀があつて、職工増は二千三百六十名で、内譯、男工一、三八九名増、女工九七一名増、主なる著増は發火物製造業七三〇名増、醸造業四五九名増、ゴム製造業三八二名増、機械製造業一二五名増、金屬品製造業八六名増、織物業八〇名増、船舶車輛製造業七五名増、木工業七三名増、紡績業七一名増、染色整理其他加工工業五一名増、雜工業四四名増、器具製造業四〇名増、組物編物業三六名増、人造肥料業三三名増、製油製蠟業二八名増、窯業二七名

増等で、その間著減は僅に燃糸業四〇名減のみである。

十二月は、軍需品製造及輸出工業並に時局匡救事業インフレの最高潮に達した月で、職工増は二千九百六十三名で、内譯、男工二、四一七名増、女工五四六名増、其主なる著増は酒造期に入りし關係上醸造業の一、六八一名増を始めとし、機械製造業二九八名増、發火物製造業二七九名増、紡績業二一六名増、織物業一五九名増、金屬品製造業一二八名増、船舶車輛製造業一〇九名増、製穀製粉業八二名増、染色整理其他加工業四〇名増、印刷製本業二六名増、石鹼及蠟燭製造業二六名増、瓦斯業二四名増等で、他方著減は僅に器具製造業六七名減、罐詰瓶詰業二四名減、燃糸業二三名減のみである。

昭和八年一月は、職工増稍緩和の嫌もあつたが、尙且一千八百八十一名で、内譯、男工六六二名増、女工五一九名増、著増の主なるものは、ゴム製造業三七六名増、機械製造業三二九名増、發火物製造業二一三名増、金屬品製造業一五五名増、組物編物業七六名増、船舶車輛製造業六三名増、菓子製造業五八名増、セルロイド製造及加工業五七名増、染料顔料塗料糊料製造業三七名増、製油製蠟業三五名増等、殆んど全面的に各工業部門に及んでゐて、其間著減は僅に皮革製品業五七名減、醸造業二五名減、器具製造業二四名減のみである。

二月は一月の職工騰勢に更に拍車をかけた月で、職工増は一千三百十二名で、内譯、男工四〇五名増、女工九〇七名増、著増の主なるものは發火物製造業五四〇名増、機械製造業三四五名増、紡績業二四六名増、ゴム製造業二一三名増、金屬品製造業一七一名増、船舶車輛製造業一七〇名増、器具製造業六二名増、組物編物業三九名増、染色整理其他加工業三七名増、製油製蠟業三六名増、織物業三三名増等、殆んど全面的な騰勢を續けてゐて、その間著減は僅に製穀製粉業三八六名減、醸造業二二三名減、雜工業三二名減のみである。

三月は過去六ヶ月間の異常なる職工騰勢の反動を受けた月で、職工は反つて三百五十名の減少を來たしてゐて、内譯、男工六〇〇名減、女工二五〇名増、著増の主なるものは軍需品製造及輸出工業に關聯せる船舶車輛製造業三五三名増、發火物製造業三一九名増、機械製造業二八七名増、組物編物業一八八名増、金屬品製造業一〇七名増、瓦斯工業四七名増、染色整理其他加工業四〇名増、雜工業四〇名増、織物業三七名増、紡績業二二名増等で、他方主なる著減は、季節終了に因る醸造業一、三八四名減を始めとし、製糸業二二三名減、ゴム製造業一六四名減、菓子製造業二四名減等である。

兵庫縣下に於ける職工移動及現在數

七 月	男	女	計
(減)	一一五名	一七二名	(減) 二八七名

八	月	(減)	三〇名	(減)	一四一名	(減)	一七一名
九	月	(增)	四五九名	(增)	三五五名	(增)	八一四名
十	月	(增)	一、一六一名	(增)	一、〇七二名	(增)	二、二三三名
十一	月	(增)	三八九名	(增)	九七一一名	(增)	一、三六〇名
十二	月	(增)	二、四一七名	(增)	五四六名	(增)	二、九六三名
昭和八年一月		(增)	六六二名	(增)	五一九名	(增)	一、一八一一名
同二月		(增)	四〇五名	(增)	九〇七名	(增)	一、三一二名
同三月		(減)	六〇〇名	(增)	二五〇名	(減)	三五〇名

解雇	男	七七四名	女	一、四三八名	計	二、二一二名
備入	男	六五九名	女	一、二六六名	計	一、九二五名
現在	男	四八、四六二名	女	四三、一六一一名	計	九一、六二三名
八月	男	七四七名	女	一、九八六名	計	二、七三三名

備入	男	七一七名	女	一、八四五名	計	二、五六二名
現在	男	四八、五四六名	女	四三、〇八〇名	計	九一、六二六名
九月	男	八一六名	女	一、五六九名	計	二、三八五名
備入	男	一、二七五名	女	一、九二四名	計	三、一九九名
現在	男	四九、〇六一一名	女	四三、五四一名	計	九二、六〇二名

解雇	男	六九六名	女	一、六二〇名	計	二、三一六名
備入	男	一、八五七名	女	二、六九二名	計	四、五四九名
現在	男	五〇、二九三名	女	四四、六八二名	計	九四、九七五名
十一月	男	五三六名	女	一、二六五名	計	一、八〇一名
備入	男	一、九二五名	女	二、二三六名	計	四、一六一一名
現在	男	五一、六八二名	女	四五、六五三名	計	九七、三三五名

十 二 月 分

解雇	男 一、〇一七名	女 一、四〇二名	計 二、四一九名
備入	男 三、四三四名	女 一、九四八名	計 五、三八二名
現在	男 五、四四八二名	女 四、六一九九名	計 一〇〇、六八一一名

昭和八年一月分

解雇	男 九三五名	女 一、七七六名	計 二、七一一一名
備入	男 一、五九七名	女 二、二九五名	計 三、八九二名
現在	男 五、五、一二五名	女 四、七、七九三名	計 一〇二、九一八名

同 二 月 分

解雇	男 一、三一四名	女 一、六五五名	計 二、九六九名
備入	男 一、七一九名	女 二、五六二名	計 四、二八一名
現在	男 五、五、五六四名	女 四、七、七〇二名	計 一〇三、二六六名

同 三 月 分

解雇	男 二、五八六名	女 一、八八三名	計 四、四六九名
----	----------	----------	----------

備入	男 一、九八六名	女 二、一三三名	計 四、一一九名
現在	男 五、五、〇七九名	女 四、七、九六六名	計 一〇三、〇四五名

京都府下に於ける職工移動概況

昭和七年七月より同八年三月に至る

京都府下に於ける職工五十名以上雇傭工場の職工増減を、昭和七年七月より同八年三月に至る、過去九ヶ月間に亘りて比較すると、

昭和七年七月には既に経済界好轉の徴が多少とも仄見えてゐて、職工増は二百十三名で、内譯、男工九九名増、女工一一四名増、その主なる著増は、紡績業九〇名増、染色整理其他加工業六六名増、織物業五五名増、人造絹糸業二八名増等で、其間減少は僅に罐詰壘詰業二四名減のみである。

八月はインフレ景氣稍停頓の觀のある月で、職工は反つて百二名を減じてゐて、内譯、男工五名減、女工九七名減、著減は紡績業一〇五名減、織物業四一名減、機械製造業三八名減等であつたが、一方著増に染色整理其他加工業九六名増がある。

九月は前月のインフレ不振の反動を受けた月で、職工増は二百九十名で、内譯、男工二四名増、女工二六六名増、著増は織物業一二六名増、染色整理其他加工業二四名増等で、一方著減は製糸業三五名減である。

十月は國內消費商品の需要減退と、軍需品製造及輸出工業等の上向とが、相伯仲した月で、職工減は七十三名にとどまつたが、内譯、男工七三名減、著減は染色整理其他加工業七〇名減、織物業三六名減、製茶業三〇名減等で、一方著増は罐詰壘詰業三八名増、器具製造業二〇名増である。

十一月は微温的ながらも、多少インフレ景氣の擡頭して來た月で、職工増は三百八十四名で、内譯、男工二二四名増、女工一七〇名増、主なる著増は紡績業一二五名増、染色整理其他加工業一二五名増、醸造業八五名増、織物業六八名増、金屬品製造業四八名増等で、一方著減は製糸業三名減、罐詰壘詰業二七名減等で、そのインフレ反映の甚だ稀薄なることは、京都府下工業の現勢を明示してゐるものといはねばならぬ。

十二月は前月に略々近き騰勢を繼續してゐて、職工増は男工のみで三百九十三名、その主なる著増は醸造業二〇五名増、紡績業一二三名増、染色整理其他加工業三二名増、物業三〇名増、人造絹糸業二九名増、機械製造業二四名増等で、一方著減は製糸業四〇名減、罐詰壘詰業三一名減等である。

昭和八年一月は、早くもインフレ景氣停頓の月で、職工増は僅に十四名、内譯、男工一五三名増、女工一三九名減、著増は器具製造業六六名増、人造絹糸業四六名増、染色整理其他加工業四〇名増、機械製造業三一名増等で、一方著減は製糸業一五一名減、紡績業四五名減等がある。

二月は過去七ヶ月間に比較して職工の最も増加した月で、職工増は四百九十五名で、内譯、男工一二一名増、女工三七四名増、著増は織物業一七一名増、罐詰壘詰業一六三名増、紡績業九九名増、人造絹糸業八〇名増、機械製造業四八名増等で、之に反して著減は製糸業五二名減のみである。

三月は職工増百七十五名で、内譯、男工一六〇名増、女工一五名増、著増は人造絹糸業二七〇名増、器具製造業六九名増、機械製造業二三名増、組物編物業二〇名増等で、一方著減は製糸業八七名減、醸造業六九名減、染色整理其他加工業二〇名減等で、要するに京都府下に於ける諸工業は、大阪府及兵庫縣と異り、軍需品製造及輸出工業に關聯するもの最も少きが故に、従つて現下のインフレ景氣の恩恵に浴すること、甚だ稀薄の憾みがある。

京都府下に於ける職工移動及現在數

月	男	女	計
七月	(増) 九九名	(増) 一一四名	(増) 二一三名

八	月	(減)	五名	(減)	九七名	(減)	一〇二名
九	月	(增)	二四名	(增)	二六六名	(增)	二九〇名
十	月	(減)	七三名	(增)	二名	(減)	七一名
十一	月	(增)	二一四名	(增)	一七〇名	(增)	三八四名
十二	月	(增)	三九三名	(減)	一名	(增)	三九二名
昭和八年一月		(增)	一五三名	(減)	一三九名	(增)	一四名
同 二月		(增)	一二一名	(增)	三七四名	(增)	四九五名
同 三月		(增)	一六〇名	(增)	一五名	(增)	一七五名
解 雇	男		一四〇名	女	五九一名	計	七三一名
備 入	男		二三九名	女	七〇五名	計	九四四名
現 在	男		九、五六六名	女	一、八五名	計	二六、七五一名
解 雇	男		二三〇名	女	七七三名	計	一、〇〇三名

八	月	男	二二五名	女	六七六名	計	九〇一名
九	月	男	一九四名	女	六一三名	計	八〇七名
十	月	男	二二八名	女	八七九名	計	一、〇九七名
十一	月	男	九、五八五名	女	一七、三五四名	計	二六、九三九名
十二	月	男	一五八名	女	六六六名	計	八二四名
昭和八年一月		男	二二三名	女	六六四名	計	八九五名
同 二月		男	一五八名	女	六六六名	計	八二四名
同 三月		男	九、五一二名	女	一七、三五五名	計	二六、八六七名
解 雇	男		一八一名	女	四四八名	計	六二九名
備 入	男		三九五名	女	六一八名	計	一、〇一三名
現 在	男		九、七四四名	女	一七、六二一名	計	二七、三六五名

現 備 解			現 備 解			現 備 解			現 備 解		
在 入 雇			在 入 雇			在 入 雇			在 入 雇		
同			同			昭			十		
三 月 分			二 月 分			和 八 年 一 月 分			二 月 分		
男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男
一〇、五九六名	四九二名	三三二名	一〇、四二一名	三四二名	二二一名	一〇、三〇〇名	三六九名	二〇六名	一〇、一三七名	五五六名	一六三名
女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女
一七、九二九名	六四二名	六二七名	一七、八七二名	八九〇名	五一六名	一七、四九八名	七一二名	八三四名	一七、六二〇名	五七六名	五七七名
計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
二八、五二五名	一、一三四名	九五九名	二八、二九三名	一、二三二名	七三七名	二七、七九八名	一、〇八一	一、〇四〇名	二七、七五七名	一、一三二名	七四〇名

